発行日2022年3月20日

ほぞん通信 第6号

発 行 人　ＮＰＯ法人龍ケ崎の価値ある建造物を保存する市民の会　代表　前田享史
お問合せ　080-6637-1950
Ｅメール　info@tatemono-hozon.net

「関東ブロック町並みゼミ in 龍ケ崎」開催

主催：NPO法人全国町並み保存連盟、NPO龍ケ崎建物保存会（略称）、後援：龍ケ崎市教育委員会
開催日：2021年12月4日（土）、会場：龍ケ崎市役所附属棟会議室
市内見学場所は竹内農場西洋館、女化神社、重要文化財多宝塔、登録文化財旧小野瀬邸、登録文化財旧諸岡邸赤レンガ門・塀、旧高松家石蔵、その他。（竹内農場西洋館以外は専用マップによる自由見学）

12月4日開催日当日、午前10時、竹内農場西洋館見学のため参加者の皆様には近くの女化神社駐車場に集まっていただきました。受付では当日のプログラム、まちあるきマップ、ランチマップ、多宝塔案内図、竹内農場西洋館冊子を配布しました。集合場所の女化神社は狐伝説と龍ケ崎市の飛び地ということで関心が集まりました。

まず最初に竹内農場西洋館に案内しました。建物は一部危険個所があり普段は立ち入り禁止ですが、今回は管理者である市の許可を得て建物の内部を見ていただきました。参加者一同興味津々の様子でした。

西洋館見学後は1時30分のゼミ開始まで自由時間で、多宝塔及び「まちあるきマップ」に添ってと中心市街地を見学していただきました。旧小野瀬邸、旧諸岡邸赤レンガ門塀、旧高松家石蔵には案内人を配置し、資料を配布し解説をしました。

1時30分からの市役所附属棟会議室でのゼミは地元からの参加者があり、約40名でほぼ満席となりました。

まず関東ブロック長の荒牧氏の主催者挨拶、そして龍ケ崎を代表して中山市長（当時）の挨拶がありました。そして基調講演は二村悟先生（工学院大学総合研究所客員研究員）の「近代化遺産を活かしたまちづくり」で、「荒々しくも純朴な人情と見栄っ張りな面影を残すまち、龍ケ崎」と、素敵なキャッチフレーズをいただきました。市内から参加された方から、素晴らしい内容の講演だったので、今度は龍ケ崎市民を対象にもう一度やって欲しいという声がかかり、今後検討することになりました。

10分間の休憩の後、地元を代表してわがNPO龍ケ崎建物保存会が5分間スピーチし、続いてディスカバリー真壁さん、NPO法人小川町創り文化プロジェクトさんの市民団体の活動報告が行われました。ディスカバリー真壁さんからは「龍ケ崎には重要文化財があるのだから、歴史まちづくり法の適用の条件を満たしている」とエールをいただきました。

最後は駅前コムハウスイベント館に会場を移し懇親会で盛り上がりました。

今回の町並みゼミが終わるまでは、何かと慌ただしい毎日でしたが、引き受けて良かったと思いました。まだまだ捨てたものじゃないぞ、龍ケ崎、ということがよく分かったのです。

「龍ケ崎の西洋館や市街地の明治・大正・昭和の歴史的な建造物を見て廻り登録有形文化財級の建物が多くあることに気づかされて、びっくりしました。二村講師の講演を聴いて、龍ケ崎の歴史を活かしたまちづくりへのパワーをいただき、ありがとうございました。」と、参加者の方から素敵なコメントをいただきました。

NPO法人川越蔵の会の皆様、ディスカバリー真壁の皆様、NPO法人小川町創り文化プロジェクトの皆様、そのほかこの企画にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。皆様の期待に応えるための龍ケ崎の歴史まちづくりが、この「関東ブロック町並みゼミin龍ケ崎」によってスタートを切ったといってよいでしょう。

前田

NPO法人全国町並み保存連盟について

地域の文化と歴史的町並みなどの保存・再生運動の一環として「全国町並みゼミ」や「地域ブロック別町並みゼミ」等を開催し、歴史・文化環境の向上と地域の活性化に寄与することを目的とした全国レベルの市民団体です。当会も一員として情報交換させていただいております。

歴史まちづくり法の研修
桜川市真壁を訪問

2021年10月8日（金）、龍ケ崎の価値ある建物を保存する会のメンバー5人（前田、田中、清水、島村、海老塚）は龍ケ崎市民活動センターで合流して、2台の車に分乗して昼前に桜川市真壁に到着しました。30分ほど街中を散策した後、昼食をとり、午後1時から真壁伝承館の会議室で、桜川市歴史的風致維持向上計画について、桜川市都市整備課の越田真太郎さんにお話ししていただきました。

「桜川市は人口4万人（ピークは1995年の5万2千人で急速に減少）、岩瀬町、大和村、真壁町が合併。平成20年に地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律が制定された。国交省など3省庁の所管で、歴史的風致維持向上計画（歴まち計画）を法律で位置づけた。平成21年「桜川市歴史的風致維持向上計画」を認定、現在の部長（当時は課長）が頑張って取り組む。令和3年に第2期計画を認定、計画作成にコンサルを使わないで職員が策定。歴史的風致とは、地域におけるその固有の歴史及び伝統を反映した人々の活動とその活動が行われる歴史上価値の高い建造物及びその周辺の市街地が一体となって形成してきた良好な市街地環境。国交省のマニュアルでの定義は、3つの要素で構成（建造物等、活動、市街地環境）、歴史的風致地区の中に重点区域、歴史的風致形成建造物は32件（第1期時点）、基本的に国登録有形文化財になっているもの（現在102件）、2010年伝統的建造物群保存地区、伝統的建造物（100軒ほどある）は歴史的風致形成建築物とは制度上住み分けている。真壁陣屋跡整備事業（歴史的風致形成建造物整備事業）を国交省の補助事業として実施、発掘調査後に伝承館を建築した。東日本大震災で建物の9割が被災し、2件が全壊、1件が大規模半壊した。地区の特定物件の修復事業を手厚い補助（補助率98％など）を受けて実施（90件、12億円）。震災により被災した高久家は所有者から市に寄贈され、市が保存修理して、令和1～2年は地域おこし協力隊員が常駐し、観光案内やマルシェ開催して交流の場となる（現在は隊員が別の取り組みのため常駐していない）。保存活用に取り組む地元市民団体は、ディスカバーまかべ、町並み案内ボランティア（10数人）などいくつかある。担い手育成のために歴史講座などを開催している。地元の人に歴史文化が存在していることを認識してもらいたい。」

その後現地を案内していただき、それぞれの家の歴史や現況などを説明してもらいました。所有者が断ったために震災被害のままで朽廃している建物が数件残っていたため、それとの比較で、手厚い補助金によりすっかりと修復された90件余りの歴史的建造物を見て、龍ヶ崎の状況と比較して羨ましくなりました。多くはある程度は利用されていましたが、何軒かは建物がきちんと修復されているにもかかわらずに空き家化して敷地に雑草が茂っている建物があり、残念でした。市に空き家バンクの制度はあるとのことですが、所有者は登録をしたがらないようです（3か月経過した現在も登録物件は400万円の同じ空き家1件のみ）。人口が減少して高齢化が進む中で、利活用が困難なことは理解できますが、きれいに整備された歴史的建物が、所有者の様々な事情で利用が進まないのは困ったことで、事業を進める人材がどの地域でもカギになっています。

海老塚

歴史まちづくり法とは

正式には「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律」といい、地域におけるその固有の歴史及び伝統を反映した人々の活動とその活動が行われる歴史上価値の高い建造物及びその周辺の市街地とが一体となって形成してきた良好な市街地の環境の維持及び向上を図るため、文部科学大臣、農林水産大臣及び国土交通大臣による歴史的風致維持向上基本方針の策定及び市町村が作成する歴史的風致維持向上計画の認定、その認定を受けた歴史的風致維持向上計画に基づく特別の措置、歴史的風致維持向上地区計画に関する都市計画の決定その他の措置を講ずることにより、個性豊かな地域社会の実現を図り、もって都市の健全な発展及び文化の向上に寄与することを目的とする。

牛久市民/龍ケ崎市民交流企画の開催について（報告）

明治36（1903）年開設された牛久シャトーと大正9（1920）年創設された龍ケ崎市の竹内農場西洋館は明治・大正期に建設されたレンガ建築物として高い文化財的な価値を有しています。この隣街の歴史的な文化財にふれる機会を通してお互いの文化を知り、龍ケ崎市民と牛久市民が交流を深めることを目的に実施しましたのでご紹介します。

第1弾：令和3年10月16日牛久シャトー見学&食事会

牛久シャトー株式会社の協力を得て龍ケ崎市民に呼び掛けてシャトーの非公開施設ガイドツアーとレストランでのランチ付きで参加費3,000円にて募集しました。参加費は高めでしたが、募集定員25名を上回る28名の参加者がありました。普段は見られない本館２階をガイド付きで見学出来て、大変よかったとの声が多かったです。

第2弾：令和3年11月6日竹内農場西洋館見学＆

レクチャー

龍ケ崎の銘菓詰合せのお土産付きで参加費1,000円にて募集したところ、牛久市民は3名と少なめでしたが、晴天に恵まれて、県外からの6名を含めて30名の参加がありました。前半にNPO龍ケ崎建物保存会の前田理事長による築101年の西洋館について詳細な説明がありました。参加者からは「西洋館の存在感に圧倒されました。写真を見るのとは全く違い、年月を経て、今あの場にある西洋館のレンガの美しさは感動的です。」「皆さんの熱意で守れた西洋館の外郭を拝見することができ、いい時間でした。藪から姿を現したレンガ造りの壁などを見てドラマチックな建物の辿った道のりを想像し時が刻まれた遺産なのだと感じました。今後どうなっていくのかまだわかりませんが、冊子をつくられたことが力になるのではと期待しています。（西洋館の保存・修復は）簡単ではないと感じてはいますが、まずは地元の方に知っていただけるといいですね！」とのコメントが寄せられました。

後半は長山コミセンに戻って、島村副理事長による竹内明太郎の足跡についての講演がありました。参加者からは「皆さんの熱い思いに心動かされました」「『市有地になったら西洋館に市民参加で紅白の梅を植えて庭園を復元したい』」との話しは戸定邸でやった庭園復元と同じですね。」などのコメントが寄せられ好評でした。

スタッフの皆様、お疲れ様でした。

島村

馴馬台地域ひなっこ協議会主催

「竹内農場西洋館及び竹内明太郎について語る」講演会について

令和3年12月11日、龍ケ崎まちづくり・つなぐネットを通して依頼を受け、馴馬台コミュニティセンターにて開催されました。

22名の参加者があり満席で、前田理事長の講演を90分間熱心に聴いていただきました。質疑応答では「西洋館を今後どう保存・活用していくのかを具体的に示してほしい！」「龍ケ崎で西洋館の保存活動を応援してもらうには、市民に西洋館を身近に感じてもらうことが一番大切だが、見えてこない。今後、市民と西洋館との当時のつながりを調べて伝えるべきだ！」「お金がかかることなので、有力な支援者を探すべきではないか。」など活発な質問や貴重なご意見をいただきました。ありがとうございました。

島村

高松家石蔵資料展及び古文書講演会開催

2021年6月27日、当会主催の旧高松家石蔵資料展を開催いたしました。

高松家石蔵は龍ケ崎市内新町にあり、商店だった建屋は取り壊され更地となり、現所有者が龍ケ崎市商工会さんとなっております。

石蔵は昭和8（1933）年建造でまもなく築90年を迎えようという歴史ある大谷石造りです。

この石蔵を龍ケ崎市内中心市街地の歴史的建造物の一つとして皆様に存在を知っていただき、龍ケ崎という街、地域の奥深さを体験していただけたらという思いも込めての資料展及び古文書講演会開催となった次第です。

当日は朝からご近所の住民の方や龍ケ崎市内ニュータウンからお越しくださった方、また当会に加入ご希望の中心市街地お住まいの方がおられたりで、改めて龍ケ崎の歴史的関心を持たれる方が多い事も感じた１日でした。

昭和10（1935）年に開催された「農業祭」の模様をおさめた映像上映は龍ケ崎市歴史民俗資料館様のご協力により実現しました！

白黒無声映画ではありますが、当時の龍ケ崎の繁栄ぶりがわかり、皆様大変興味を持ってご覧になられておりました。

また資料展での目玉とも言える高松家石蔵に残されていた4通の明治時代の手紙については、龍ケ崎市古文書同好会後藤様、瀧口様に大変尽力いただき、「植松」「近重」という名前から壮大な高松家と女化の地の繋がりも解り、地元龍ケ崎及び隣接する女化の繋がりもはっきり解り関心高い内容の講演会となりました。

当日は手紙に記された「近重」から、高松家との繋がりが解り、そのご関係（高松家と親戚関係にあたる）の近重様が水戸より来龍くださり30年ほど前に実際に高松家に来たことがあるというお話も伺えて、我々が知らなかったような事柄もあったりと非常に貴重な時間でもありました。

高松家石蔵資料展開催は終わりましたが始まりの第一歩だと思いを新たにしております。

この石蔵資料展をもとに、龍ケ崎市内の様々な歴史的建造物などへ関心持つ方が増えたら嬉しいです。

また機会があったら石蔵見学会なども開催出来たらと思っているところです。

田中

龍ケ崎まちづくり・つなぐネット 2021年実績

11月18日（木）八原まちづくり協議会主催、コミセンウォーキング「龍ケ崎市街地を歩く」

諸岡邸赤レンガ門塀、旧小野瀬邸ほか龍ケ崎の史跡旧跡の案内

12月11日（土）馴馬台地域ひなっこ協議会主催、講演会「竹内農場赤レンガ西洋館」について

当会の前田理事長が講師を務める

当会はまちづくりの一環として龍ケ崎の史跡旧跡の案内役を承けたまわっております。

こうした要望がありましたらぜひつなぐネットで。龍ケ崎市市民活動センターにお問い合わせください

☎ 0297-63-0030

編集後記

一昨年の暮れ、全国町並み保存連盟関東ブロック長の荒牧氏から「来年の関東ブロック町並みゼミを龍ケ崎でやってくれないか」と話を持ち掛けられ、「前向きに検討します」と答えたものの、はたして龍ケ崎で出来るだろうかと不安で悩みました。龍ケ崎の市街地は戦後の看板建築で覆われた商店街、それも多くの店舗がシャッターを下ろし活気が感じられない。こんな龍ケ崎で町並みゼミが開催出来るはずがないと最初は思いましたが、NPOの定例会議でこの件を提案したところ、様々な意見がありました。市街地には登録文化財旧小野瀬邸と登録文化財旧諸岡家赤レンガ門塀、そして旧高松家石蔵があり、周辺地区には竹内農場西洋館に重要文化財多宝塔や旧若柴宿があるから何とか出来るだろうと意見を纏め、町並みゼミin龍ケ崎を引き受けました。先ずは会場を探すことから始まり、史跡マップやランチマップの作成等、半年かけて開催の準備を重ねました。そして昨年の12月4日（土）このイベントが成功裏に終わり、一同ほっとしているところです。

町並みゼミを開催したことで分かったこと、それは、私たちが思っている以上に傍から見た龍ケ崎は魅力に溢れているということです。

私たちのやるべきことは多々ありますが、今後は龍ケ崎の新たな魅力発見や魅力を上手にアピールする方法を考えてみたいと思います。

編集長　前田享史

https://tatemono-hozon.net/

NPO建物保存会